

ベトナム紅河デルタの専業村における家内工業の実態

— ハーナム省チェウ村のライスペーパーを事例に —

齋 藤 鮎 子

The Craft Villages of Rural Industry in Red River Delta, North Vietnam: A Case Study of Rice Paper Rural Industry in Cheu Village, Ha Nam Province

SAITO Ayuko

The industrialization of farm villages, including the local industry, is performed as a part of the farm villages' development policy, which has been flourishing from early the 1990s, to solve the problems in rural areas that experienced rapid economic growth after the Doi Moi policy was introduced in Vietnam. The rural industry (cottage industry) that is specialized in the production of specific farm village industry products in rural areas is referred to as a craft village. Craft villages comprise small scale management agencies. In recent years, craft villages have gained popularity for consistently absorbing redundant workers within farm village.

However, the economic activities of the industrial division in rural areas are run small management agencies (an informal sector), with no reliable statistics on their performance. Therefore, it is important to clarify the role of the informal sector that supports the economy in Vietnam.

This study focuses on the craft village in Cheu village in Ly Nhan district, Ha Nam Province, Red River Delta, which manufactures rice paper. Therefore, the aim of this study is to clarify the manufacture and sale of rice paper while focusing on households, their members, and the internal networks in the manufacture of rice paper. This study is based on the results of field surveys conducted 10 times during the period from September 2013 to September 2014.

キーワード：専業村 (craft villages)、ライスペーパー (rice paper)、家内工業 (rural Industry)、親類関係 (relative)

1 はじめに

ベトナムは、1986年のドイモイ（刷新）政策の採択以後、実質的な市場経済に移行し、さらに国際社会との調和を重視した全方位的外交を進めることにより、急速な経済発展を遂げた。ドイモイがもたらした変化は、とりわけベトナム北部の農村部では、1950年代から行われてきた農業合作社を単位とする集団農業から農家世帯を単位とする家族農業への転換である。すなわち競争原理が導入されたことにより、商業的農業のインセンティブが活かされ、各世帯の農業生産力は急速に拡大することとなり、ひいては一国の農業生産力もそれに従い急速に拡大していった¹⁾。

例えば1976年の籾生産量は1,200万トンにすぎなかったが、1995年には2,500万トンに達する（桜井、桃木 編 1999）。1990年代には、ベトナムはコメの輸出国へと転じ、2017年にはインド（約1,300万トン）、タイ（約1,000万トン）に続き第3位（約700万トン）となった。1990年と2012年のベトナムの産業別GDP構成比を比較すると、第一次産業が39%から20%、第二次産業が23%から38%、第三次産業が39%から42%へと変化し、産業構造の高度化が進んでいることがわかる（白石 2015）。つまり、相対的に工業部門や商業・サービス部門が拡大しているといえよう。さらに、2018年の実質GDP成長率は、7.1%と過去10年間で最も高い成長率を記録した（GSO「ベトナム統計局」）。

現在のベトナム政府は、「2020年までに工業国化を達成する」という目標のもと、さらなる工業化・近代化路線に傾注している。工業化が進むと、農村から都市への人口移動により都市化傾向に拍車がかかり、農村人口が減少することが一般的である。しかし、ベトナムの場合は都市部における生活コストの高さから農村人口は一向に減少せず、いわゆる「農村人口の固定化」が起こることにより、農村の余剰労働力を農村内でいかに吸収するが重要な課題となっている（高橋 2015）。こうした農村での余剰労働力を吸収する主体として、特定の農村工業品の生産に特化した家内工業が集積した専業村²⁾と呼ばれる小規模で零細な経営主体が近年注目されている。

1) ベトナムの農村に関する研究は、とりわけベトナム北部におけるフランス統治下時代の村落を行政単位としてどのように位置づけ、植民地政策を行うかに主眼が置かれた。グルー（2014）は、フランスの認識を典型的に示している。伝統的農村には村の掟として村落ごとに「郷約」があり、「国王の法は村の習慣に従う」（グルー 2014: 246）ということわざに表されるように、村落の自律性・自治性が認められていた。こういったベトナム村落自治体の成立を、桜井（1987）は、その共同体性の核となった村落共有田（公田）制度から明らかにした。

2) 専業村は越語で *làng nghề* と呼び、英語では *craft villages* と訳される。*làng* は村、*nghề* は職業、商売、手仕事と訳される。したがって、*làng nghề* を直訳すれば、職業村などとなるが、坂田（2018）は、2000～2004

そこで本稿では、ベトナム経済を支える専業村において零細な自営業を営むインフォーマルセクターの家内工業の実態を明らかにするために、ライスペーパー³⁾の製造に特化した専業村におけるライスペーパーを製造する世帯（以下「製造世帯」とする）を対象に、これらの製造と販売の実態について筆者が現地で収集した資料や参与観察によって明らかにする。

2 ベトナムにおける農村および専業村の動向

専業村と呼ばれる中小零細規模の製造業者が農村部に集積する歴史的な起源は、ベトナム北部の紅河デルタ地域では、1009年に李王朝の都をタンロン（現在のハノイ）に遷し、手工業職人を都の近郊に住ませたことにある。とりわけ人口稠密な紅河デルタ（トンキン・デルタ）の農村に関心を寄せたフランスの地理学者ピエール・グルー（以下「グルー」とする）は、1920～1930年代のハノイにリセ⁴⁾の教員として滞在しながら休日を利用して紅河デルタ全体をくまなく調査し、資料を収集した。その成果は、1936年にソルボンヌ大学に学位論文として提出された『トンキン・デルタの農民⁵⁾』である。本書は、紅河デルタの包括的な農村地域研究書として、ベトナム地域研究者の間では、必ず参照されるべき古典的研究業績である（野間 2003）。本書の1章分は「農村工業⁶⁾」と題され、当時の専業村の具体的様子が詳細に示されている。1930年代

年に公布された農村部における工業化と専業村の発展に関する奨励政策や、2006年に公布された農村における非農業経済活動の発展に関する奨励政策などの一連の農村部における経済活動から、*nghề*は職種ではなくどちらかといえば経済活動自体を指すニュアンスが強いとする。そのため *làng nghề* を職業村と訳さないのと同様に、*nghề* を「非農業経済活動」と訳している。日本語に関する正式な名称はまだ確立されていないが、専業村のほかに、「伝統（的）工芸村」などと表されることもある。

3) ライスペーパーは糝粉を水で溶いて、薄く円くのばし半乾きにしたものを天日で乾燥した食材である（川本 編 2013）。桜井、桃木 編（1999: 24-25）では、ベトナム人は「米をいかに多く食べるか」に心を砕き、コメの消費を一生の課題として生きている民族、すなわち「米大食」民族であると位置づける。さらにベトナムにおけるコメ料理の多様性を示しながら、特にベトナム料理にはライスペーパーという米の芸術品を絶対に欠かすことはできないと指摘する。穀物の粉 *bột* を水で練り、蒸す・焼く・茹でるなどの加工した食品の総称が *bánh* である。ベトナムの食卓には、糝粉に水を含ませて蒸したものに肉などの餡を包んだ *bánh cuốn*、同様に蒸したものを干してライスペーパー *bánh đa* にし保存食として常備し、必要に応じて水で戻し野菜や肉を巻いた *gỏi cuốn*、糝粉を水で溶いて平たく板状に蒸し、きしめんのように切られた *phở*、水糝粉を水でこねた生地を押し出して細長い線状にしてゆであげたブン *bún* などが欠かせない。

4) リセはフランスの後期中等教育機関で、日本の高等学校に相当する。

5) 原著は Pierre Gourou 1936. *Les Paysans du Delta tonkinois; étude de géographie humaine*. École des Études Française Extrême Orient, 1965年の新版（リプリント版）は、著者が追加した解説文や段級区分図の区分が増やされる。2014年の翻訳版の底本は1965年が用いられる。

6) 第3部「トンキン農民の生計」の第10章「農村工業」。この章は、以下の節から構成される。I 工業人口の分布、II さまざまな工業、III 諸工業の分布要因、IV 農民工業の特徴、V 農村工業の発展。

のトンキン・デルタには363万人の労働力人口があり、そのうち25万人（6.9%）が工業的な仕事に特化した農民、すなわち農民工業従事者であるとしている（グルー2014: 421）。またグルーは、トンキン・デルタには108種の異なる業種の専門村が存在し、その中でも職人数5万4,000人を抱える食品業を重要業種と指摘している（グルー 2014: 428）。

グルーの示した専門村の様子は、ドイモイを起点に以降の急速な経済成長とともに一変することとなった。農業部門においては、経営主体が集団農業から家族農業への移行にともない、生産量が飛躍的に拡大した。その一方で人口増加にともなう農地不足、土地なし農民や農業労働者の増加、所得格差の拡大、大量の半失業・完全失業者を生み出すなどの社会的緊張が無視できなくなった（藤田 2006: 137-138）。こういった問題を解決すべく、ベトナム政府は農村開発政策の一環として、地場産業を含む農村の工業化を促進する政策を打ち出した。1993年の農村発展に関する政策では、土地なし農民を非農業部門で吸収し、農村工業、サービス業などの非農業部門の振興による労働の再配置によって農村経済構造の再編成を推奨した⁷⁾。また、「専門村の復活」という文言が明記され、その政策目標に組み込まれた⁸⁾。2000年の農村部における手工業・美術工芸部門の発展に関する首相決定では、非農業部門の発展に関する奨励政策が初めて具体化される⁹⁾。2004年には、農村工業の発展に関する奨励政策が打ちだされ、本格的な農村の工業化と専門村の発展が奨励された¹⁰⁾。さらに2005年には、人口圧の上昇による農村・都市間の所得格差の解消を目的とした「一村一品運動」が農業・農村開発省によって提唱された¹¹⁾。2006年には、2000年の首相決定よりもさらに明示的に、専門村の保存や観光と一体化した専門村の発展、非農業経済活動の発展を奨励する政府議定が公布された¹²⁾。このように、1993年から2006年まで専門村を含む農村に対して様々な政策が政府によって行われてきたが、これにともないベトナムにおける専門村の数と労働者数も変化している。

坂田（2017）は、ベトナム統計局の「農業・農村・水産業センサス」（GSO2012¹³⁾）の結果を

7) 1993年6月第7期第5回共産党中央執行委員会の「農村の経済・社会の継続的刷新と発展に関する第5号決議」。井出（2006: 139）を参照。

8) 坂田（2017: 7）を参照。

9) 2000年11月の「農村の非農業業種部門の発展に関する若干の奨励政策」についての首相決定第132号。井出（2006: 140-141）、坂田（2017: 8）を参照。

10) 2004年6月の「農村工業発展奨励政策」政府議定第134号。井出（2006: 140）、坂田（2017: 8）を参照。

11) 2005年6月2日公表の「2006～2015年時期における『一村一品』発展プロジェクト」（草案）。2000年首相決定132号の延長線上に位置づけられる。井出（2006: 150-151）を参照。

12) 2005年6月2日公表の「2006～2015年時期における『一村一品』発展プロジェクト」（草案）。2000年首相決定132号の延長線上に位置づけられる。井出（2006: 150-151）を参照。

13) GSO (General Statistics Office) various years, *Statistical Yearbook of Vietnam*, Hanoi: Statistical Publishing House

用いて、ベトナムにおける専業村を分析し、2001年、2006年、2011年における地域別の専業村数および労働者数の推移を示している（表1）。ベトナム全体における専業村の増加率は、2001～2011年の10年間で88.6%、労働者数の増加率は60.3%といずれも増加している。なかでも、李王朝時代から伝統的専業村が残る北部の紅河デルタが最も多く、全体の半数以上を占める。とりわけ紅河デルタの労働者数は、この10年間で約21万人が増加しており、その増加率は74.1%を占めることから、専業村の存在が農村部では重要な就業機会を提供していることが伺える。専業村は経済的側面からみても価値を有しており、2000年の輸出額は2億7,370万ドル、2011年には10億ドルに達し、2011年の輸出額はこの年のベトナム総輸出額の1%以上に当たる（Vũ Quốc Tuấn 2011: 101）。

表1 ベトナムにおける地域別専業村数と専業村の労働者数

（ ）は構成比%

	2001年		2006年		2011年	
	専業村数	労働者数	専業村数	労働者数	専業村数	労働者数
紅河デルタ	367 (52.4)	290,132 (60.6)	615 (57.1)	412,228 (62.9)	706 (53.4)	505,026 (65.8)
北部山岳	36 (5.1)	30,753 (6.4)	43 (4.0)	20,196 (3.1)	152 (11.5)	49,295 (6.4)
中部沿岸	168 (24.0)	76,115 (15.9)	289 (26.8)	143,835 (21.9)	305 (23.1)	108,255 (14.1)
中部高原	5 (0.7)	341 (0.1)	7 (0.6)	474 (0.1)	9 (0.7)	837 (0.1)
東南部	12 (1.7)	18,021 (3.8)	11 (1.0)	9,361 (1.4)	18 (1.4)	10,980 (1.4)
メコンデルタ	113 (16.1)	63,142 (13.2)	112 (10.4)	69,712 (10.6)	132 (10.0)	92,880 (12.1)
全国	701 (100.0)	478,504 (100.0)	1,077 (100.0)	655,806 (100.0)	1,322 (100.0)	767,273 (100.0)

注1：労働者数は、季節労働者などは含まず、恒常的労働者と推定される。

注2：2001年と2006年では、紅河デルタと北部山岳、中部沿岸と東南部の地域区分でそれぞれ属する省が異なる。

資料：坂田（2017：10）をもとに筆者作成。

坂田（2017）で用いられているベトナム統計局のような公的な調査以外にも、専業村の数を

把握する資料として研究者の独自調査によりまとめられたものがいくつか存在する¹⁴⁾。ところが、これらの資料はそれぞれに独自の定義を用いていることに加え、そもそも公的機関による専門村の定義が明確でないため、依拠する文献・資料（表2）により、専門村の数は異なり正確に把握できなく、専門村のマクロ的状況を定量的に把握することは困難である（坂田 2017: 9-10）。

表2 各資料にみる専門村の定義と専門村の数

資料番号	著者	発行年	定義	専門村の数	備考
1	JICA-MARD	2004	①村の全世帯数のうち20%以上が特定の非農業生産活動に関わっている ②村の全所得のうち20%以上を特定の非農業生産活動から得ている	2,017	
2	Đặng Kim Chi	2005	①村の全世帯のうち少なくとも30%の世帯が特定の非農業経済活動に従事しているか、あるいは300人が従事している ②その非農業生産活動による生産価値が村全体の生産価値の少なくとも50%を占めるか、あるいは年間3億ドンに達する	1,450	資料番号1よりやや狭い定義
3	Mahanty, Sango, Trung Dinh Dang, and Phung Giang Hai	2012	村の全世帯のうち30%の世帯が特定の非農業生産活動に従事していること	3,221	資料番号1・2に比べると、ひとつの基準のみで緩やかな定義
4	ベトナム統計局 (GSO)	2012	明記なし	1,322	
5	ベトナム専門村協会 (Vũ Quốc Tuấn)	2011	明記なし	2,790	

資料：坂田（2017：9-10）をもとに筆者作成。

14) Đặng Kim Chi, chủ biên 2005. *Làng Nghề Việt Nam và Môi Trường* (ベトナムの工芸村と環境), Hà Nội: Nhà Xuất Bản Khoa Học và Kỹ Thuật (科学技術出版社).

JICA-MARD (Japan International Cooperation Agency and Ministry of Agriculture and Rural Development) 2004. *The Study on Artisan Craft Development Plan for Rural Industrialization in the Socialist Republic of Vietnam: Final Report (Vol.1)* : Almec Co., International Development Center of Japan.

Vũ Quốc Tuấn (ベトナム専門村協会) 2011. *Làng Nghề trong Công Cuộc Phát Triển Đất Nước* (国家開発事業の中の専門村), Hà Nội, Nhà Xuất Bản Tri Thức (知識出版社).

Mahanty, Sango, Trung Dinh Dang and Phung Giang Hai 2012. *Crafting Sustainability: Managing Water Pollution in Viet Nam's Craft Villages*. Discussion Paper 20, Development Policy Center, Australian National University.

3 調査の概要

(1) 調査の目的と方法

グルーに代表される仏領期の研究は、植民地宗主国側からみたという偏りはあるものの、当時の紅河デルタ農村の実態を明らかにし、その後の紅河デルタ農村の研究方向を決定づけた(筒井 2004: 115)。これに加え、1945年の北ベトナム独立からドイモイ開始までの約40年間は農村での調査が困難であったこともあり、諸研究は仏領期の研究成果やそれ以前の漢籍史料に依拠せざるをえなかった(筒井 2004: 115)。こういった背景をもとに行われた諸研究に対して桜井(1987)は、とりわけグルーが指摘した農村観¹⁵⁾については観念的、静態的であると指摘し、なおかつベトナムの農村を動的に捉えるためには、村落の歴史的段階における多様性とその発展過程を明らかにするべきだとした。この指摘に加え、筒井(2004: 115-116)は、農村社会の内部に立ち入って、具体的に農民が社会や経済を構築してゆく過程を解明することが重要であるとした。そのためには、研究の視点を農村内の個人や世帯のレベルまで掘り下げる必要があるとして、ベトナムにおける農村の構成要素を人間関係から生じる「個人の社会的ネットワーク¹⁶⁾」として捉えようとした。さらに坂田 編(2013)はベトナムにおける農村について、2000年以降のベトナムにおける農業・農村を国家の経済発展やグローバルな経済の動向から考察している¹⁷⁾。とりわけ紅河デルタ地域における専業村の労働市場について、経済活動が計上されない零細な経済主体であるインフォーマルセクターとその雇用から明らかにした。

坂田 編(2013)が目指すインフォーマルセクターは、「個人基礎¹⁸⁾」と呼ばれる零細な自営業者で、農村部における工業部門の経済活動は彼らによって担われる。2006年のベトナム国内で「企業」として登録されている法人数は約15万社であるが、これに対して非農業経済活動を行う「個人基礎」は、約330万世帯である。このうち57%にあたる約186万世帯が農村にみられるとされる(坂田 2010: 4)。経済活動が計上されない「個人基礎」である中小企業やインフォ

15) グルー(2014)は、紅河デルタにおける農村社会の農村観を「自律的な共同体」と特徴づけた。

16) 筒井(2004: 115-116)の「社会的ネットワーク」とは、地縁・血縁を基盤としつつ、これらの既存の関係を越えて就学時代の同級生や職場の同僚といった個人の社会的経歴の過程で形成される諸個人間の関係を意味し、匿名でない顔見知りの関係でもあるとしている。

17) 坂田 編(2013)が扱ったテーマは、長(2005)以降、学術書として記述された書籍は出版されてこなかったもので、決して研究の蓄積が豊富とは言えない。近年のベトナム経済が大きく変貌する中で、こういったテーマを扱う坂田 編(2013)の意義は大きいと考える。

18) 「個人基礎」の定義は、従業員10人以下の零細な自営業者である。2002年から非農業個人基礎に関する調査(General Statistics Office 2007. *Non-farm Individual Business Establishments*; 2004-2006 Results of Surveys, Hanoi: Statistical Publishing Houses.)が行われている。坂田(2010: 4)を参照。

ーマルセクターなどの零細な経済主体の存在は、都市部のみでなく農村部においても農業以外の経済活動として重要である。したがって、ベトナムの農村、とりわけ專業村を研究するにあたり、これらの統計上に現れない零細で家内工業的経済主体である「個人基礎」の実態を明らかにすることは、きわめて重要な課題であり、これは研究の視点を個人や世帯のレベルまで掘り下げる必要があるという、先述の筒井（2004）の意見と合致する。

これらを踏まえたうえで本稿では、ライスペーパーの製造に特化した專業村であるベトナム北部ハーナム省のチェウ(*Chêu*)村を対象に、製造世帯およびその構成員に焦点を当てつつ、ライスペーパーの製造と販売の実態を明らかにするために、村落の内部とのネットワークに注目して検討する。

本稿は、筆者がベトナムに滞在した2013年9月～2014年9月の期間中のべ10回にわたり行った現地調査の結果にもとづくものである。まず、製造世帯の実態を明らかにするために、製造世帯の世帯主に対して質問票を用いた対面式聴き取りアンケート調査を実施した。さらに、村の有識者や村の上位行政単位である行政村の（日本の村役場に相当する）人民委員会の職員などに対して、製造世帯やライスペーパー製造の歴史、流通について補足的聴き取り調査を実施した。質問票の内容は以下の通りである。

- ①世帯と世帯構成員の属性情報：家族構成、氏名、性別、年齢、出生地、学歴¹⁹⁾、職業
- ②ライスペーパーの製造に関する情報：製造量、販売形態および販売先、経営形態、製造機械の有無、製造機械の使用開始時期
- ③一日のスケジュール：世帯構成員の一日の行動と時間配分
- ④一年のスケジュール：ライスペーパーの年間製造スケジュール

(2) 対象專業村の概観

本研究の対象專業村は、ハノイ市の中心市街地から約60km南の紅河デルタ地域に位置するハーナム(*Hà Nam*)省リーニャン(*Lý Nhân*)県グエンリー(*Nguyễn Lý*)社のチェウ村²⁰⁾であ

19) ベトナムの学校教育制度が統一されたのは、1989年になってからである。1976年の南北統一以前は、南北で教育制度は異なっていた。1981年に旧南ベトナムの制度が採用され、教育の中央行政機関である教育訓練省によってカリキュラムが統一変更された。このカリキュラムにもとづき、1991年には、初等教育の5年間を義務教育とすることが決定された。現在の義務教育期間は小学校5年、中学校4年の計9年間（6～15歳）である。

20) ベトナムの行政区画は、2013年憲法第110項（2014年1月1日制定）により、3級制で分けられる。第1級行政区は5つの市（ハノイ市、ホーチミン市、ダナン市、ハイフォン市、カントー市）からなる中央直轄都市（越語：*Thành phố trực thuộc Trung ương*、英語：*City under direct authority of central government*）と58の

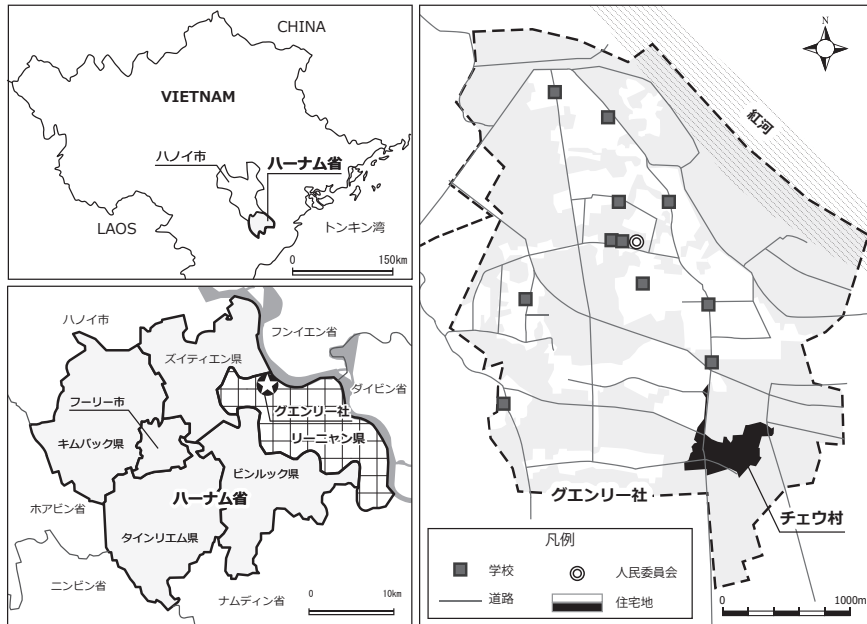


図1 チェウ村の位置
(筆者作成)

る(図1)。ハーナム省は、省都であるフーリー(Phủ Lý)市、リーニャン県、ズイティエン(Duy Tiên)県、キムバン(Kim Bàng)県、タインリエム(Thanh Liêm)県、ビンルック(Bình Lục)県を含んだ5県からなり、面積は862km²で、バクニン(Bắc Ninh)省に次いで面積が小さく、

省(越語: Tỉnh, 英語: Province)である。第2級行政区は、中央直轄市の下には郡(越語: Quận, 英語: Urban district), 県(越語 Huyện 英語: Rural district), 市社(越語: Thị xã, 英語: Town)とし、省の下には県, 市社, 県級市(越語: Thành phố trực thuộc tỉnh, 英語: City under province)を置く。第3級行政区は、県の下には市鎮(越語: Thị trấn, 英語: Town under district), 社(越語: Xã, 英語: Commune)が、市社と県級市の下には社と坊(越語: Phường, Precinct)が、郡の下には、坊が置かれる。国家行政単位ではないが、伝統的な共同体としての役割を持つムラ(越語: thôn, 英語: village)が町村レベル地方行政組織の監視下に存在している。陳朝(1225~1400年)頃から自然村のいくつかは数個に集められ、行政村として社がつくられる。これと同時に公田は社を単位として切り替えられ、税は社でまとめて納税された。このように社は政治の基礎単位であったように、現在でも社は末端行政単位として、人民委員会が置かれる。17世紀後半には、thônの多くは行政単位として社から自立し、社やthônはフランス統治下時代には植民地の共同制作のもとに末端行政組織として残存した。1954年以後、旧来の社は廃止され、社主席を長とする新たな社がつくられる。再三の変遷を繰り返しながら、複数の旧社を便宜的に集められ現在の社は、共同体的性格は薄く、国家の末端行政単位としての性格が強い。社の下部単位であるもとの自然村には、小村落のxóm, 部落thônや、これよりも行政単位としては大きいlàngが含まれる。対象地域であるチェウ村はlàngである。

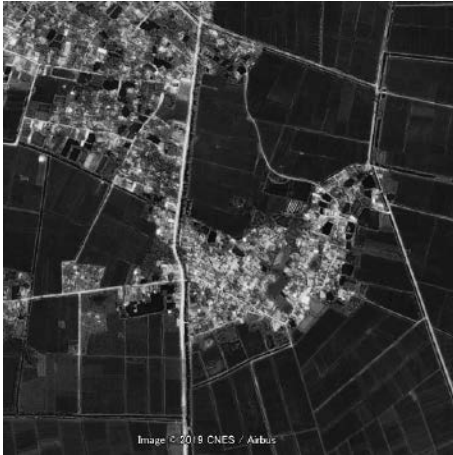


図2 チェウ村周辺の空中写真
資料：Google Map より引用

省全体の人口は約80万人である（2015年）。

グエンリー社（2011）によると、グエンリー社は20の村で構成され、これらの村は8つの地域に区分される。世帯数は3,604、人口は12,136人、労働力人口は6,455人のうち、農業就業人口が半数近い3,164人を占め、小規模産業の手工業の就業者数は1,176人となっている。チェウ村の世帯数は189、人口は762人で、8村の中で4番目に人口が多い。チェウ村の総世帯数のうち、158世帯（83.6%）がライスペーパーの製造に従事している。グエンリー社の土地利用は、農地が64.87%占め、そのうちの半数以上が水田である（図2）。

4 チェウ村におけるライスペーパー製造と販売の発達史

(1) ライスペーパー製造の歴史と近年の動向

聞き取り調査の結果にもとづき、チェウ村のライスペーパーの製造の歴史をまとめる。チェウ村におけるライスペーパーの製造の起源は定かではないが、およそ700年前から農間余業として発展してきたようである（チェウ村ライスペーパー製造協会 HP）。当時は、販売目的ではなく自家用として消費されていたようだ。いつからか、チェウ村におけるライスペーパーは、伝統工芸品として周辺地域に知られるようになっていた。ドイモイ以降になると、ライスペーパーは自家用よりも販売を目的に製造されはじめる。さらに、2000年代になると、機械の導入により本格的に販売を目的に製造されはじめる。

製造機械導入のきっかけは、1996年に遡る。チェウ村に在住し、家族でライスペーパーの製造を行いながら、村内のライスペーパーを集荷する産地仲買人である男が、ホーチミン市²¹⁾にライスペーパーを売りに出向いた。そこで、彼と同様にクチ県²²⁾からライスペーパーを売りに

21) ホーチミン(*Hồ Chí Minh*)市は、旧南ベトナム共和国の首都サイゴンであり、現在ではベトナム最大の都市である。政治の中心である首都ハノイに対して、ホーチミン市は古くからベトナム経済の中心地として栄える商業の中心地である。フランス統治時代の影響が残る街並みから「東洋のパリ」と称される。

22) クチ(*Cù Chi*)県は、ホーチミン市に属する県である。ベトナム戦争中に南ベトナム解放民族戦線の拠点となった場所である。

来た産地仲買人が大量のライスペーパーを持ってきていたことに驚き、その理由を探るとライスペーパーの製造に機械を使用していることが分かった。チュウ村におけるすべての製造世帯は、古くは石臼(図3)でコメを粉碎していたが、当時はほとんどの製造世帯が電力駆動式のコメ粉碎機を使用していた。しかし、クチ県のように生地を自動で成形する電気機械はどの製造世帯も用いていなかった。彼は、チュウ村にも機械を導入すればライスペーパーの製造量の増加とともに村も発展す



図3 コメを挽く石臼
(2014年筆者撮影)

ることを確信し、クチ県からきた産地仲買人の紹介で、機械を用いたライスペーパー製造の視察を行い、村に戻ってからはグエンリー社のチュウ村とは別の村にある機械製造工場とチュウ村在住の製造世帯兼産地仲買人と共同で機械の開発を行い、2003年に機械が完成する。2004年、チュウ村内の4つの製造世帯を自宅へ招き、無料で機械を使用させる試運転会兼広報活動を行った。口コミで機械のうわさが広まり、2008年には村内の全製造世帯が機械を使用することとなる。2014年、村内には機械が18台あり、周辺の村には約200台の機械が稼働している。

上位行政村であるグエンリー社人民委員会は、農村開発政策の影響を受けるなかで、チュウ村に古くから伝統工芸品として認識されていたライスペーパーを用いたチュウ村の経済発展を模索していた。2010年、グエンリー社人民委員会がチュウ村のライスペーパーのブランド保護を目的とした開発計画を知的財産局(科学技術省)に提出し、翌年の2011年10月には、知的財産局から「チュウ村のライスペーパー」が商標登録され、ブランドが保護されることとなった。この商標を管理する組織として、「チュウ村ライスペーパー製造協会」が発足し、幹部には製造機械を開発した在村産地仲買人がいる。チュウ村で製造されたライスペーパーには、チュウ村ライスペーパー製造組合のロゴマークが使用される(図4)。



図4 チュウ村のロゴマーク
資料：チュウ村ライスペーパー製造協会HPより引用

(2) ライスペーパーの製造工程

ライスペーパーの製造は、家族単位で自宅の敷地内にある工場で家内工業的に行われる。ま

ず、下準備として、コメ研ぎと浸水作業を行う。水が張られたタンクにうるち米を一晩程度浸して発酵させる（図5）。コメは長時間水に浸すと水が黄色く変色し酸性となり、品質・栄養が損なわれるため、新しい水に交換する必要がある。逆に浸水時間が短すぎるとコメの粘着性（デンプン質）があらわれず、ライスペーパーにならない。いずれにせよ、高度な技術と経験が必要になるため、これらの技術と経験は、一家相伝とされてきた。

次の工程は、ライスペーパーの生地準備である。コメは、水と一緒に電力駆動の粉碎機にかけられ、これを濾してさらに水と塩を混ぜたのち、持てる大きさのバケツに小分けにする（図6）。ライスペーパーの味と見た目を決める水と塩の量は、一家相伝とされたもので、その分量は秘匿とされている。

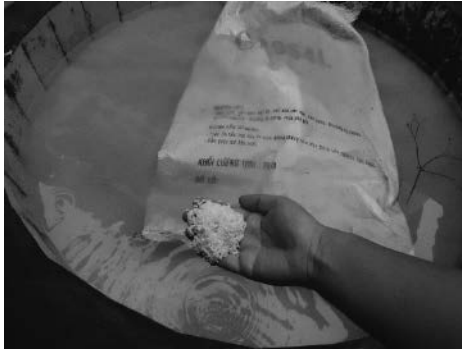


図5 コメの浸水
(2014年筆者撮影)



図6 小分けにされたライスペーパーの生地
(2014年筆者撮影)

次の工程は、ライスペーパーの生地の成形である。バケツに入った生地のもとを自動成形機に充填する（図7）。充填された生地のもとは、コンベアの上で薄くのばされ、そのまま蒸気が立ち込めるドームを3mほど進むと生地となり、別のコンベアから送られた竹で編んだ板（以下「竹網板」とする）の上に自動で置かれる（図8）。自動成形機の生産能力は、竹網板1枚につき約3秒で、竹網板1枚からおよそ8枚のライスペーパーが作られる。竹網板は、縦180cm、横40cm程の大きさで、タイグエン省²³⁾から編まれた状態で運ばれてくる。竹網板は自動で送り出されるが、その装填は一枚一枚手作業で行う。

竹網板は、素材が竹だけで作られた網目が荒いものと、この上にさらに網目の細かい素材で

23) ベトナム東北部に位置するタイグエン(Thái Nguyên)省はもともと、バクタイ(Bắc Thái)省で、1996年11月にタイグエン省とバクカン(Bắc Kạn)省に分割された。タイグエン省の南はハノイ市に接している。



図7 ライスペーパーの生地のもとを自動成形機に充填する
(2014年筆者撮影)



図8 ライスペーパーの自動成形機
(2014年筆者撮影)

覆われたものの2種類がある。前者の竹網板は、食用油が塗られるものと、そうでないものに分類される。食用油が塗られたものは、生地が乾燥したのち竹網板から剥す際に綺麗に剥がれるため、形が良く輸出用の高級品とされる。一方そうでないものは、国内用で輸出用よりも安価で販売される。網目の細かい竹網板は、乾燥したのち綺麗に剥すことができ、食用油を用いたものと同様に見た目も良いため、これで作られたライスペーパーは最上級品として輸出用とされる。自動成形機は電力で駆動するが、ドーム内に充満させる蒸気は、クワンニン省²⁴⁾産の石炭を用いて沸かした湯がもとなる(図9)。自動成形機が使われる以前は、湯を沸かした大きな鍋に布を張り、手作業で布の上に生地のもとを流し円形に広げ、一枚一枚慎重に竹網板に張り付けていた。

次に、コンベア上で運ばれた竹網板同士の間の生地を包丁で切断する(図10)。さらに次の工程は、生地の乾燥と選別である。竹網板をおよそ半日程度干す。天候や季節にもよるが、天日で1時間程度乾かしてから、日陰に入れて急激な乾燥によるひび割れを防ぐ。また、この乾燥作業がライスペーパーの良し悪



図9 工場の敷地内に置かれた石炭
(2014年筆者撮影)

24) クアンニン(Quảng Ninh)省は、南をハロン湾に面し、北を中華人民共和国と接する。クワンニン省は石炭などの豊富な天然鉱産資源を有しており、ホンゲイ無煙炭の産出地として著名である。



図10 ライスペーパーの生地を切断
(2014年筆者撮影)



図11 道端で乾かされるライスペーパー
(2014年筆者撮影)



図12 荷車で運ばれるライスペーパー
(2014年筆者撮影)

しを左右するため、乾燥の度合いや季節や天候による乾燥時間の調節は非常に難しく、その技術は家族間で昔から共有されてきた。干場は、軒先や道路、自身が所有する農地や自宅の敷地など至るところを利用する（図11）。干場とライスペーパーを成形する工場との移動は、ほとんどが荷車を使用するが、自転車と一体になった荷車もある（図12）。乾燥したライスペーパーの生地は、竹網板の両端から2人で同時に慎重に剥す。その後、破れ具合が少なく見た目が良いものとそうでないものに選別する。

最後の工程は、生地切断と包装である。生地は選別されたものごとに重ねられ、ある程度の厚さに達してから正方形に切断する。一つの竹網板から正方形のライスペーパーが8つ取れる。さらにこれを器具で上から押さえて、不要な部分を切り落とし円型にする（図13）。その後、何枚かを一束にして自動の包装機で袋の口を閉じる（図14）。袋自体にラベルが印字してい



図13 円く切り出されるライスペーパー
(2014年筆者撮影)



図14 機械で包装されるライスペーパー
(2014年筆者撮影)

るものもあれば、袋の上にラベルシールを貼る場合もある。

(3) ライスペーパーの流通と産地仲買人の役割

ここまで製造工程をみてきたが、すべての製造工程が製造世帯で行われている訳ではない。生地の乾燥と選別まではすべての製造世帯で行われるが、選別を終えたライスペーパーはそのランクによってその後の製造工程が変わる。例えば、上物とされる輸出用のライスペーパーは、正方形に切り出された後、製造世帯でもある在村する産地仲買人に買い取られる。チェウ村のライスペーパーを集荷する産地仲買人は3人いる。そのうち1人が村長（製造世帯兼自動成形機開発者）、1人が村内在住の製造世帯兼自動成形機開発者、1人が村外在住の自動成形機開発者である。3人ともに自動成形機を所有している。彼らは、村内のライスペーパーを集め円形に切り揃え、包装して梱包したものを高速バスの荷台に積んでハノイにある食品卸売会社に販売する。ここを通じてアメリカ、ロシア、日本、韓国、オランダ、アンゴラなどの外国貿易会社へ輸出販売し、そこから各国々の国内で流通する（図15）。チェウ村で製造されたライスペーパーの輸出は2000年から行っており、輸出先の割合はオランダが90%、その他は同一となっている。

一方、これに比べてランクが低く安価なものは、国内用として流通する。この中でも見た目が良く上物とされるものは、在村する産地仲買によって集められ、輸出用と同様に円型に切り出され包装されたのち、ハノイにある食品卸売会社を通じて国内の小売店などに流通する。さらにこれより下級品とされるものは、円形には切り出さず正方形のまま、包装もされないまま製造世帯の販売担当者によって周辺の小売市場で直販される。

以上、チェウ村におけるライスペーパーの発達史をみてきた。チェウ村のライスペーパーは、

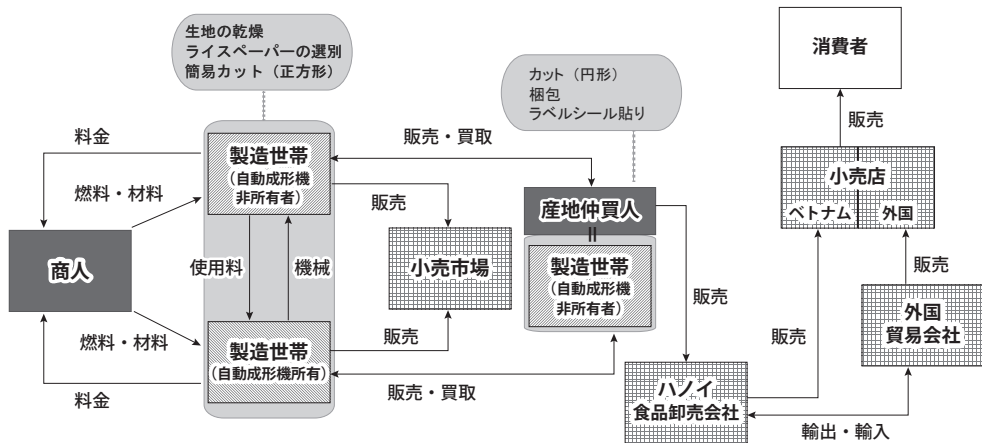


図15 チェウ村におけるライスペーパーの生産流通販売経路
(聞き取り調査をもとに作成)

古くから農間余業として発展してきたが、2003年に村内在住者である産地仲買人を中心に自動成形機が開発され、2008年には村内のすべての製造世帯がこれを使用することで村内における製造量は飛躍的に向上した。また、1990年代から盛んに行われてきた政府による農村開発政策の流れを受け、グエンリー社人民委員会によって2011年にはチェウ村のライスペーパーは商標登録された。さらに、これを管理する組織として「チェウ村ライスペーパー製造協会」が発足し、ブランド保護を行うこととなった。2000年には、ライスペーパーは産地仲買人を經由して、ハノイの食品卸売会社から主に先進国に輸出され、販路を拡大していった。このように、在村する産地仲買人がキーパーソンであり、彼らが様々なかたちでライスペーパーに関与することで、チェウ村のライスペーパーが発達していったと結論づけられる。

5 ライスペーパー製造世帯の実態

(1) ライスペーパーを製造する世帯の特徴

本節では、聞き取りアンケート調査の結果にもとづき、製造世帯の実態を考察する。本調査によって、20世帯83人の情報が得られた(表3)。このうち男性が41人、女性が42人である。まず製造世帯の構成をみると、構成員は基本的にチェウ村出身である。世帯主はすべてチェウ村出身者である。しかし、世帯主の妻や世帯主の子の妻は、チェウ村と同じ県ではあるが、別の社の出身である(世帯番号2, 7, 8, 16, 17, 18, 19)。また、チェウ村と同じ省ではあるが、別の県の出身者もみられる(世帯番号10, 15)。その他には、ハーナム省の南に接するニンビン

省²⁵⁾の出身者もみられる(世帯番号5)。世帯番号10を除く世帯主は、すべて男性である。世帯主の平均年齢は49.3歳、最高齢は66歳、最年少は28歳である。

表3 ライスペーパーを製造する世帯と家族の属性

世帯番号	構成員番号	姓名	性別	年齢	家族構成	出生地	学歴	職業	調査日
1	1	Trần	男	37	世帯主	チュウ村	不明	ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Nguyễn	女	36	妻	チュウ村	不明	ライスペーパーの製造・販売	
	3	Trần	男	12	長男	チュウ村	6	学生	
	4	Trần	男	6	次男	チュウ村	1	学生	
2	1	Ngô	女	75	母	チュウ村	不明	無職	2014年 4月19日
	2	Phạm	男	49	世帯主	チュウ村	7/10	(本) ライスペーパーの製造 (副) 農家	
	3	Ngô	女	48	妻	リーニャン県 Đức Lý社	7/10	(本) ライスペーパーの製造・販売 (副) 農家	
	4	Phạm	男	25	長男	チュウ村	12/12	会社員	
	5	Phạm	男	23	次男	チュウ村	9/12	会社員	
3	1	Trần	男	52	世帯主	チュウ村	7/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Trần	女	51	妻	不明	7/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	3	Trần	女	24	長女	チュウ村	大学在学中	学生	
	4	Trần	女	23	次女	チュウ村	大学在学中	学生	
	5	Trần	男	21	長男	チュウ村	大学在学中	学生	
4	1	Phạm	男	54	世帯主	チュウ村	7/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Trần	女	49	妻	チュウ村	6/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	3	Phạm	男	28	長男	チュウ村	大卒	医者	
	4	Phạm	女	20	次女	チュウ村	大学在学中	学生	
5	1	Nguyễn	女	69	母	チュウ村	不明	無職	2014年 4月19日
	2	Trần	男	36	世帯主	チュウ村	9/12	ライスペーパーの製造	
	3	Trần	女	32	妻	チュウ村	9/12	ライスペーパーの製造	
	4	Trần	女	12	長女	チュウ村	6	学生	
	5	Trần	男	9	長男	チュウ村	3	学生	
	6	Trần	男	2	次男	チュウ村	—	—	
6	1	Trần	男	54	世帯主	チュウ村	不明	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Phạm	女	51	妻	チュウ村	7/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	3	Trần	男	19	長男	チュウ村	9	学生	

25) ニンビン(Ninh Bình)省は、ニンビン市を省都とする紅河デルタ地方の南端に位置する。北西はホアビン(Hoà Bình)省、北東はハーナム省、東はナムディン(Nam Định)省、南西はタインホア(Thanh Hóa)省、南はトンキン湾に接する。

世帯 番号	構成員 番号	姓名	性別	年齢	家族 構成	出生地	学歴	職業	調査日
7	1	Lê	男	46	世帯主	チュウ村	7/12	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Lê	女	37	妻	リーニャン県 Công Lý社	12/12	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	3	Lê	女	14	長女	チュウ村	8	学生	
	4	Lê	女	8	次女	チュウ村	2	学生	
8	1	Trần	男	66	世帯主	チュウ村	6/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Trần	女	60	妻	チュウ村	7/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	3	Trần	男	32	長男	チュウ村	11/12	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	4	Vũ	女	30	長男の 妻	リーニャン県 Đức Lý社	9/12	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	5	Trần	男	10	長男の 長男	チュウ村	4	学生	
	6	Trần	女	6	長男の 長女	チュウ村	1	学生	
9	1	Trần	男	58	世帯主	チュウ村	不明	ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Lê	女	56	妻	チュウ村	不明	ライスペーパーの製造	
	3	Trần	男	33	長男	チュウ村	12/12	会社員	
	4	Đặng	女	29	長男の 妻	チュウ村	9/12	ライスペーパーの製造・販売	
	5	Trần	男	2	長男の 長男	チュウ村	—	—	
10	1	Trần	女	48	世帯主	チュウ村	7/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Lê	男	24	長男	チュウ村	12/12	仕立屋	
	3	Nguyễn	女	18	長男の 妻	ビンルック県 Đinh Xá社	12/12	仕立屋	
11	1	Trần	男	53	世帯主	チュウ村	7/10	ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Trần	女	50	妻	チュウ村	7/10	ライスペーパーの製造	
	3	Trần	女	21	長女	チュウ村	大学在学中	学生	
12	1	Trần	男	41	世帯主	チュウ村	12/12	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Trần	女	37	妻	チュウ村	7/12	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	3	Trần	男	17	長男	チュウ村	11	学生	
	4	Trần	男	12	次男	チュウ村	6	学生	
13	1	Đào	男	65	世帯主	チュウ村	7/10	無職	2014年 4月19日
	2	Phạm	女	62	妻	チュウ村	7/10	ライスペーパーの製造	
	3	Đào	女	40	長女	チュウ村	不明	ライスペーパーの製造	
	4	Đào	男	38	長男	チュウ村	大卒	教師	
	5	Lê	女	35	長男の 妻	ニンビン省 Nho Quan県	大卒	教師	
	6	Đào	女	7	長男の 長女	チュウ村	1	学生	
	7	Đào	男	3	長男の 長男	チュウ村	—	—	

世帯 番号	構成員 番号	姓名	性別	年齢	家族 構成	出生地	学歴	職業	調査日
14	1	Trần	男	50	世帯主	チュウ村	7/10	(本) ライスペーパーの製造 (副) 農家	2014年 4月19日
	2	Nguyễn	女	42	妻	不明	7/10	(本) ライスペーパーの製造 (副) 農家	
15	1	Trần	男	52	世帯主	チュウ村	7/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Nguyễn	女	40	妻	ビンルクック県 Bình Nghĩa 社	7/10	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	3	Trần	男	21	長男	チュウ村	大学在学中	学生	
	4	Trần	女	19	長女	チュウ村	大学在学中	学生	
16	1	Trương	男	64	世帯主	チュウ村	7/10	ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Phạm	女	63	妻	リーニャン県 Đức Lý 社	7/10	ライスペーパーの製造	
17	1	Trần	男	不明	父	チュウ村	不明	無職	2014年 4月19日
	2	Nguyễn	女	不明	母	チュウ村	不明	無職	
	3	Trần	男	30	世帯主	チュウ村	12/12	ライスペーパーの製造	
	4	Trần	女	20	妻	リーニャン県 Đức Lý 社	9/12	ライスペーパーの製造・販売	
	5	Vũ	女	1	長女	チュウ村	—	—	
18	1	Phạm	男	56	世帯主	チュウ村	5/10	(本) ライスペーパーの製造 (副) 農家	2014年 4月19日
	2	Trần	女	54	妻	リーニャン県 Vĩnh Trụ 社	7/10	(本) ライスペーパーの製造 (副) 農家	
	3	Phạm	女	23	長女	チュウ村	大卒	経理士	
19	1	Phạm	男	28	世帯主	チュウ村	9/12	ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Phạm	女	27	妻	リーニャン県 Nhân Chính 社	9/12	ライスペーパーの製造	
	3	Phạm	男	4	長男	チュウ村	—	—	
	4	Phạm	女	0	長女	チュウ村	—	—	
20	1	Trần	男	47	世帯主	チュウ村	9/12	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	2014年 4月19日
	2	Nguyễn	女	43	妻	グエンリー社	12/12	(本) 農家 (副) ライスペーパーの製造	
	3	Trần	女	22	長女	チュウ村	大学在学中	学生	
	4	Trần	男	20	長男	チュウ村	12/12	不明	

- 学歴：ベトナムの義務教育期間は、小学校5年、中学校4年の計9年間（6～15歳）である。高校の就学率は42.8%である（外務省）。したがって、この表では学歴は高校までの12年間を基準にして表記した。小学生1～5年を1, 2, 3, 4, 5, 中学生1～4年を6, 7, 8, 9, 高校生1～3年を10, 11, 12と表記した。なお、1970年代はベトナム戦争の影響により大学を除く小学校から高校までの期間は10年間であったため、表記は異なる。詳しくは、注17)を参照されたい。
- 職業：(本)は本業を、(副)は副業を表す。

(聞き取り調査をもとに作成)

次に世帯主の職業をみると、本業・副業問わず、すべての世帯主がライスペーパーの製造に従事している。世帯主が女性である世帯番号10を除くすべての世帯主の妻は、世帯主と同様にライスペーパーの製造に従事している。ライスペーパーの製造のみを生業にしている世帯は、8世帯（世帯番号1, 5, 9, 11, 13, 16, 17, 19）である。その他には、本業をライスペーパー

の製造とし、副業として農家を生業にする世帯（世帯番号 2, 14, 18）や、反対に農家を本業としライスペーパーの製造を副業としている世帯が 9 世帯（世帯番号 3, 4, 6, 7, 8, 10, 12, 15, 20）みられる。さらに詳しく世帯構成をみると、複合世帯において世帯主とその妻と同様に、ライスペーパーの製造に従事する子がいる世帯が 3 世帯みられる（世帯番号 8, 9, 13）。一方、子がライスペーパーの製造に従事していない世帯（世帯番号 2, 5, 17）は、共通して世帯主の親はライスペーパーの製造に従事していない。また、世帯主の子が別の職に就いている場合もあれば、学生あるいは労働年齢に達していない場合がみられる。

最後に世帯構成員の姓名についてみる。世帯主の姓で最も多いのは *Trần* で 13 人、次に *Phạm* が 4 人、*Lê*, *Đào*, *Trương* が 1 人である。村長への聞き取り調査により、チュウ村の世帯主の姓名は、*Phạm* (約 40%)、*Trần* (約 30%)、*Nguyễn* (約 20%) であることがわかった。このように同じ姓名を持つ集団は、ホハン (*họ hàng*)²⁶⁾ と呼ばれる親族・親類関係にあり、同姓の傍系親族にあたる。ベトナム人（キン族）の姓 (*họ*) は普通、それぞれ漢字一文字からなり、阮（グエン、*Nguyễn*）、陳（チャン、*Trần*）、黎（レ、*Lê*）だけで全体の約 60% を占める。これに范（ファム、*Phạm*）、黄（フィン／ホアン、*Huỳnh* / *Hoàng*）、潘（ファン、*Phan*）を含めると全体の約 75% に達し、上位 10 位の姓で人口の約 85% を占める²⁷⁾ (Lê 2005)。したがってベトナムでは姓名の数そのものは少ないが、村内において 3 つのホハンが占める割合が多いことは顕著であり、特筆すべき点である。

以上の記述から、チュウ村における製造世帯を特徴づけると、次のように要約される。ライスペーパーの製造は、主に世帯主を中心とした家族で行われるが、世帯により専門的に行われる場合もあれば、農家の副業として行われる場合もある。また、世帯主の子やその妻も製造に携わっていることから、いずれにせよチュウ村におけるライスペーパーの製造は、世帯主を中心として家内工業的に行われていると言える。

著者は、チュウ村と同じく食品加工の専業村であるハノイ郊外のライスヌードルを製造する世帯が集積するフドー村において、その世帯の実態について明らかにした（齋藤 2019）²⁸⁾。フドー村とチュウ村の製造世帯の特徴を比較すると、世帯主とその妻が中心となる家族経営で

26) ホハン (*họ hàng*) は、直訳すると、親戚、親族、親類である（川本 編 2013: 713）。*họ* は姓、*hàng* は行列や身分を表す。父系母系の区別はあまり明らかではない傍系親族とも表される（桜井、桃木 編 1999: 19）。すなわち同姓の傍系親族である。

27) ベトナム人（キン族）の名前は普通、それぞれ漢字一文字からなる姓 + (ミドルネーム) + 名の順で構成される。男性女性ともに結婚後も姓は変わらず、子には父の姓をつけるのが普通で、なかには父と母の姓を並べて母の姓がミドルネームにつけている場合もある。桜井、桃木 編（1999: 180-181）を参照。

28) 齋藤（2019）の調査では、14 世帯 75 人の情報をもとにライスヌードルを製造する世帯の特徴が述べられた。

行われている点は共通する。しかし、フードー村では、すべての製造世帯が専門的に食品の製造を行っている点はチェウ村と異なる。また、フードー村の世帯構成員の出生地はすべて同村であり、都市化が著しい近郊農村であるが、婚姻による外部との交流関係がきわめて希薄であることが示された。これに比べてチェウ村の製造世帯は、婚姻による外部との関わりがみられる。なおかつ村内には、ホハンという同姓の傍系親族関係が顕著にみられる。さらに、世帯構成員のライスペーパーの製造・販売活動への参加という観点で両村を比較すると、フードー村の場合は、学校を卒業した子や、学校に通っている子も補助的に製造の手伝いをしている場合が多く確認され、なおかつ職業に関する質問では、本業を「学生」、副業を「ライスヌードルの製造」との回答が得られた。しかしチェウ村では、学生である子はこれらの活動を手伝い程度にすることはあっても、職業で「ライスペーパーの製造」と回答していないことから、ほとんどこれらの活動に参加していないのが実情である。また、フードー村では、力仕事が得意な男性が製造担当、家事を中心的に行う女性は販売担当にあてられるように家族内分業制と性別役割分担が顕著であったが、これに比べてチェウ村では製造・販売といった担当があまりみられない。

(2) ライスペーパーの製造と販売

本節では、聴き取りアンケート調査の結果にもとづき、製造世帯におけるライスペーパーの製造と販売の実態について考察する。表4は、各製造世帯のライスペーパーの製造と販売に関する回答を示したものである。表5は、ライスペーパーの自動成形機に関する回答を示したものである。

まず、一日の製造量に関する質問(Q1.)では、最も製造量が多い世帯では160kg、最も製造が少ない世帯では16kgである²⁹⁾。20世帯の製造量の平均は、一日当たり約48kgである³⁰⁾。48kgを竹網板に換算すると、約900枚となる。自動成形機を用いた場合、竹網板1枚に約3秒かかるため、900枚仕上げるのに1時間で可能な生産能力をもつ。次に、販売先とその割合に関する質問(Q2.)では、主な販売先は産地仲買人である(世帯番号1, 20を除く)。製造世帯は完成したライスペーパーをモーターバイクの荷台に積載し、産地仲買人の自宅に届けるのが一般的であるが、日によっては産地仲買人が製造世帯の自宅に集荷しに来ることもある。ライスペーパーの

29) ライスペーパーの製造量は、竹網板の枚数で換算した。竹網板100枚で5kgのライスペーパーが作られる。

30) 世帯番号12, 13は、日により製造量が変化している。20世帯の平均製造量は最も少ない値(世帯番号12は27kg, 世帯番号13は16kg)を用いて計算した。

表4 ライスペーパーの製造と販売に関する質問と回答

世帯番号	Q1. 1日の製造量 (単位: kg)	Q2. 販売先とそれぞれの割合 (単位: %)	Q3. 経営形態
1	100	O: 95, S + R: 5	会社
2	28	T: 100	個人
3	30	T: 80, M: 20	個人
4	37	T: 100	個人
5	84	T: 100	個人
6	50	T: 100	個人
7	40	T: 100	個人
8	40	T: 100	個人
9	28	T: 90, M: 10	個人
10	18	T: 100	個人
11	20	T: 100	個人
12	27-30	T: 100	個人
13	16-20	T: 100	個人
14	28	T: 100	個人
15	30	T: 100	個人
16	20	T: 100	個人
17	80	T: 90, M: 10	個人
18	32	T: 100	個人
19	160	T: 100	個人
20	100	O: 100	会社

※ライスペーパーの製造量は、竹網の枚数で換算した。竹網板1枚から8枚のライスペーパーが作られる。竹網板100枚で5kgのライスペーパーが作られる。

Q2. Tは産地仲買人, Mは市場, Sはスーパーマーケット, Rは飲食店, Oはその他を表す。
(聞き取り調査をもとに作成)

産地仲買人へ販売価格は品質により異なり、20～30kgで約7,000VND³¹⁾である。産地仲買人から製造世帯への支払いは、月末締め当月末払いとなっている。

ほとんどの世帯が製造したライスペーパーを産地仲買人に販売しているが、なかには自らスーパーマーケットやレストランに販売している世帯（世帯番号1）や、産地仲買人への販売を主としながら、一部は自ら小売市場へ行き販売する世帯（世帯番号3, 9, 17）などもみられる。産地仲買人への販売価格よりも自らスーパーマーケットや小売市場などで販売する方が高値であるため、製造世帯の中で、販売担当者が確保される場合には、モーターバイクにライスペーパーを積載し、近くの小売市場で販売する。

31) 聞き取りアンケート調査当時（2014年3～4月）の平均為替レートでは、204.62ベトナムドン(VND)は1円である。1,000VNDが約4.8円。

表5 ライスペーパーの自動成形機に関する質問

世帯 番号	Q4. 自動成形機 の有無	Q5. 自動成形機の所有開始時期 または使用開始時期	
		所有	使用
1	○	2003	2003
2	×	—	2006
3	×	—	2004
4	×	—	2004
5	×	—	2005
6	×	—	2005
7	×	—	2005
8	×	—	2005
9	×	—	2005
10	×	—	2005
11	○	2005	2005
12	×	—	2007
13	×	—	2006
14	×	—	2007
15	×	—	2007
16	×	—	2007
17	○	2013	2013
18	×	—	2005
19	○	2007	2007
20	○	2005	2005

・自動成形機の有無：○は有，×は無を表す。
(聞き取り調査をもとに作成)

経営形態に関する質問 (Q3.) では、世帯番号 1, 20 の回答は「会社」であった。さらに詳しく世帯番号 1 および 20 について説明すると、両世帯ともに産地仲買人である。世帯番号 1 は、村内在住の製造機械の開発者、世帯番号 20 は製造機械の開発の発起人で現在チュウ村の村長である。両世帯の販売先に関する回答 (Q2.) が、「その他」となっているが、これはハノイの食品卸売会社である。

さらに、ライスペーパーの自動成形機の有無に関する質問 (Q4.) では、20 世帯中 5 世帯 (世帯番号 1, 11, 17, 19, 20) が自動成形機を所有している。これを所有する世帯のうち、所有開始時期が最も早い世帯 (世帯番号 1) は、2003 年から所有しており、最も遅い世帯 (世帯番号 17) は、2013 年から所有している。自動成形機を所有していない世帯においてもこれを使用している世帯が多くみられる。これらの世帯は村内の所有世帯の工場まで機械を借りに行き、そこでライスペーパーの成形工程を行っている。以上の結果から、村内には製造世帯間で自動成

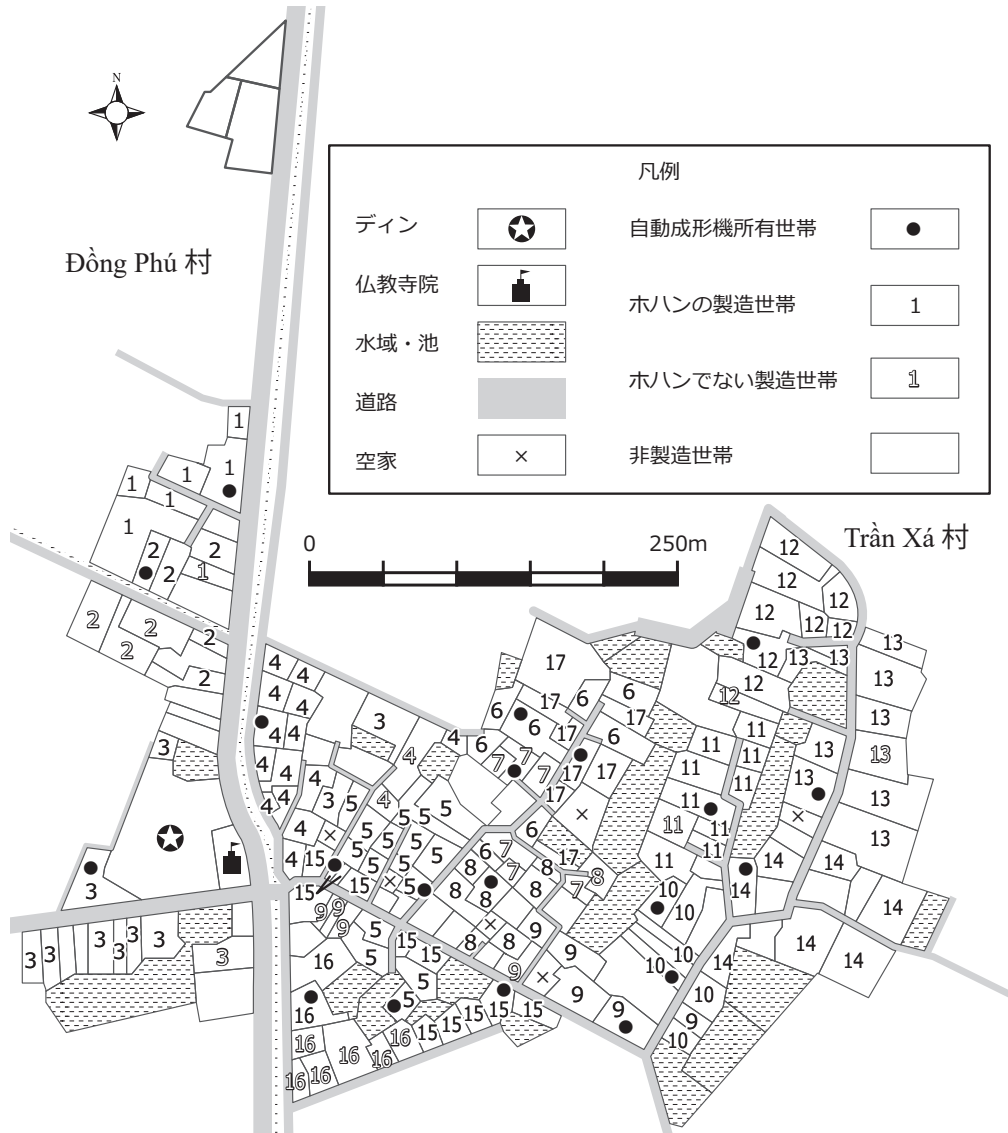


図16 チェウ村におけるライスペーパー製造世帯の分布と自動成形機使用グループ
 ※同一の番号はグループ (表6のグループに対応) を示す。
 (現地調査および聞き取り調査をもとに作成)

表6 製造世帯グループの世帯数およびホハンの世帯数

グループ	グループの世帯数	ホハンの関係がある	ホハンではない
1	7	6	1
2	8	5	3
3	11	10	1
4	16	14	2
5	16	16	0
6	8	8	0
7	6	0	6
8	8	7	1
9	9	5	4
10	6	6	0
11	10	9	1
12	9	8	1
13	10	9	1
14	7	7	0
15	11	11	0
16	8	2	6
17	8	8	0
総数	158 (100)	131 (82.91)	27 (17.09)

※総数の（ ）は構成比%

※グループ番号は図16の番号と対応する

(現地調査および聴き取り調査をもとに作成)

形機の利用貸借が明らかとなった。さらに村長および製造世帯への聴き取り調査と現地での悉皆調査の結果にもとづき、村内の製造世帯の分布および自動成形機の貸借関係とそのグループについてまとめたものを図16、表6に示す。

村内の製造世帯の分布は、広く全体に広がっている。村の西に位置するディン³²⁾および仏教寺院に面する通りは、別の村落に続くメインストリートとなっていて、村内で最も道幅が広い。一方、比較的道幅が狭く奥まった道路の周辺にも製造世帯の分布がみられる。次に、自動成形機は村内に18台あり、これを17のグループで使用している。世帯数が最も多いグループは4と5で、ともに16世帯が自動成形機を共同で使用している。なかでもグループ4は、自動成形機を2台所有している。

グループは、自動成形機の所有者世帯とこれを借りる世帯が、同じ姓名を持つホハンという

32) 非キリスト教集落では内部中央には村落の集会所かつ村落神を祀る亭(ディン *dinh*)、その他の神を祀る祠廟(デン *den*)や仏教寺院(チュア *chùa*)が並ぶ(桜井, 桃木 編1999)。かつての村の掟である「郷約」は村民が亭に会して規定された。

同姓の傍系親族関係によって構成されることを基本とする。例えば16世帯からなるグループ5は、すべての世帯がホハンの関係にある。一方、6世帯からなるグループ7は、すべての世帯がホハンの関係にない。また、9世帯からなるグループ9は、ホハンの関係がある世帯が5、そうでない世帯が4とホハンの関係に関わらずグループが形成されている。グループ9のように、ホハンの関係に無い世帯がグループに参加しているグループの数は11グループある。ホハンでない世帯は、運搬の利便性を重視して自宅までの距離が近い自動成形機を所有する世帯と同村出身者という社会的ネットワークを基盤とし、パーソナルな関係を構築してグループに参加している。自動成形機を所有する世帯との距離が近くても、使用する世帯が多く機械の利用が許されない場合には、使用世帯が少ない自動成形機を所有する世帯を探して新たにパーソナルな関係を構築する。

このように、自動成形機を所有する世帯を中心としたグループが存在し、各グループ内でこれを共同で使用するが、使用する際には平等性を保つためいくつかのルールが存在する。自動成形機を所有しない世帯は、決められた時間にこれを所有する世帯の自宅に付設する工場へ生地のもとと竹網板を持参する。およそ30分の間隔で非所有世帯が所有世帯の工場に訪れる。自動成形機を所有しない世帯の訪問時間は、一日ごとに30分の時間がずれるように設定されている(図17)。ライスペーパーの製造で最も重要な工程は、ライスペーパーの乾燥である。ライスペーパーの生地の成形は自動成形機を使用するため、どの世帯も生産能力に差はでない。しかし、ライスペーパーの乾燥には機械は用いておらず、乾燥の時間が確保できるかどうかで生産能力が変化し、世帯収入が変化する。生地作りをはじめめる時刻が早ければ、それだけ乾燥する

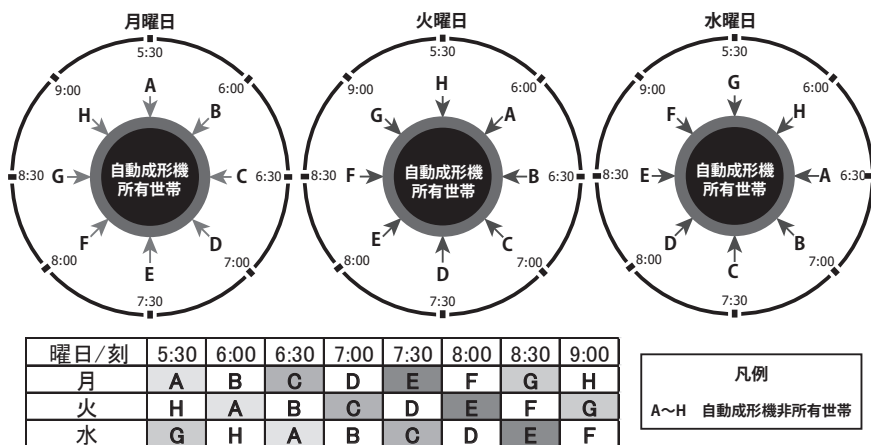


図17 チェウ村における自動成形機の貸借ルール
(聞き取り調査をもとに作成)

時間を確保できるため、このように自動成形機の使用時間を考慮したルールが村内に定着した。使用料は、100枚の竹網板で20,000VND³³⁾である。

(3) 一日の行動時間配分とライスペーパーの年間製造スケジュール

本節では、世帯構成員に製造および販売担当者がいる拡大家族世帯の世帯番号9をモデルとし、世帯構成員の一日の行動時間配分とライスペーパーの年間製造スケジュールについて考察する。図18は、製造担当者である世帯主と妻、販売担当者である長男の妻の一日のタイムスケジュールである。図19は世帯構成員の停留点（station）と活動を表したデイリーパスである。ライスペーパーの製造担当者および販売担当者の行動をそれぞれに検討する。

製造世帯の一日のスケジュールは、ライスペーパーを乾燥させる時間を確保するため、早朝から製造作業を行う。製造担当者および販売担当者は早朝5時に起床し、朝食はコーヒーや茶とパンなど簡単なもので済ましたのちに、自宅の敷地内にある工場に移動して、ライスペーパーの製造準備を始める。世帯によるが女性は家事に専念し、製造に参加しない場合もある。世帯番号9は、小さな子がいてなおかつ長男が会社に勤めているため、長男が自宅で子の面倒をみながら簡単な家事を行っている。世帯主、世帯主の妻、長男の妻は、前日に準備しておいた浸水作業を終えたコメを自宅工場の粉碎機を用いて、ライスペーパーの生地のもとをつくる。これを終えると、世帯主と長男の妻は、生地のもとと竹網板を荷車に積み、自動成形機を所有する世帯に行きライスペーパーの生地を製造する。その後、竹網板に張り付けられたライスペーパーの生地を自宅の工場に持ち帰る。一方、世帯主の妻は自宅の工場で生地のもとを作り終えるとライスペーパーの生地の製造には参加せずに自宅に戻り、会社へ出勤する長男と入れ替わって子の面倒をみながら家事を行う。世帯主と長男の妻が持ち帰ったライスペーパー付きの竹網板は、世帯主と世帯主の妻によって自宅の敷地や軒先に立てかけられ、ライスペーパーを

期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
製造担当者	睡眠				朝食	生地の準備	移動準備 移動	生地の成形	移動準備 移動	生地の乾燥						生地を測す 選別	夕食準備 夕食	生地・裁断・商品の運搬	その他	睡眠				
販売担当者	睡眠				朝食	生地の準備	移動準備 移動	生地の成形	移動準備 移動	翌日の準備	その他	昼食準備 昼食	その他	ライスペーパーの販売			生地を測す 選別	夕食準備 夕食	生地・裁断・商品の運搬	その他	睡眠			

図18 ライスペーパー製造世帯（世帯番号9）の一日のスケジュール（聞き取り調査をもとに作成）

33) 注31を参照されたい。

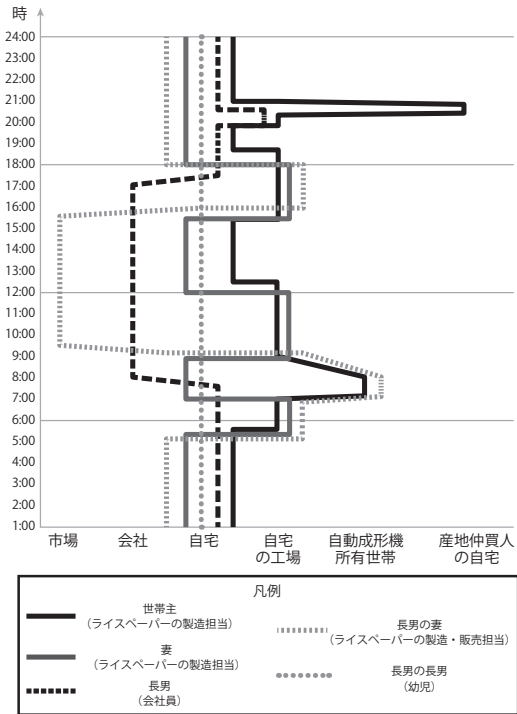


図19 世帯番号9の世帯構成員のデイリーパス
(聞き取り調査をもとに作成)

乾燥させる。乾燥を待つ間、世帯主は翌日の準備を行い、世帯主の妻は子の面倒をみながら家事などを行う。

一方、長男の妻は自宅に戻るとオートバイに前日完成させたライスペーパーを積載し、周辺の小売市場へ販売に出かける。長男の妻は小売市場で適当なものを食べながら、ライスペーパーを販売し、15時半頃になると、ここで夕食の買い物をしてから自宅に戻る。ライスペーパーが完売すればこれより先に自宅に戻ることもある。自宅に戻ると、乾燥したライスペーパーを竹網板から剥す作業を世帯構成員全員（幼児の子は除く）で行う。竹網板の両端から同時に同じ力で剥さなければ綺麗に剥がれないため、この作業は複数人で行う。生地を剥し終わると、製造工程のすべての活動を行う世帯主が中心となってライスペーパーの選別を行う。17時を過ぎると長男が帰宅し、18時頃になると世帯主の妻と長男の妻は一緒に夕食の準備を行う。夕食は自宅にて世帯構成員全員で取り、夕食を終えると世帯主と長男で生地の裁断を行い、世帯主はオートバイにこれを積載し産地仲買人の自宅まで運ぶ。基本的に産地仲買人への運搬は、重いライスペーパーの積み下ろしを行うため、力仕事を得意とする男性が行う。雨の日

は、モーターバイクの荷台に積んだライスペーパーが雨によって痛むため、決して運搬は行わない。また、世帯主に余力が無い場合には、次の日の乾燥を待つ間に行く。産地仲買人からの支払いは、月末締め当月末払いの支払いであるため、運搬は特に急がない。運搬の間、世帯主の妻と長男の妻は、家事や育児を行う。早ければ21時頃に世帯構成員全員が就寝する。

製造担当者と販売担当者の一日の行動時間配分をみる(図20)。製造担当者および販売担当者の「ライスペーパーに関する活動」は、両者ともに13.5時間であるが、内訳は異なる。なかでも製造担当者が最も時間を充てているのは、「生地の乾燥」である。しかし、内実はこれに関わる実働はほとんど無く、生地の乾燥を待っている間に、「食事に関する活動」や「その他」として雑事を行っているように、フレキシブルな対応が可能である。特に世帯主の妻は、生地の乾燥を待つ間、家事の延長として昼食の準備である「食事に関する活動」や、長男の子である孫の面倒をみるなどの「その他」を行っている。農家と並行してライスペーパーの製造を行っている世帯では、生地の乾燥を待つ時間を農業の活動時間としている。ライスペーパーの製造は、比較的それ以外の時間の確保が容易であることから、専業的に行わなくとも副業として成り立つため、チュウ村内には依然とライスペーパーの製造世帯が多い。

一方、販売担当者が最も多く時間を充てているのは、「ライスペーパーの販売」である。また販売担当者は、自らライスペーパーを販売するために市場へ移動しなければならないため、製造担当者よりも「移動準備・移動」の時間が1時間多い。長男は、会社勤めをしているため、「ライスペーパーに関わる活動」はほとんど行っていないが、夕食後には自宅の工場で世帯主とともに1時間程度の生地の裁断を補助的に手伝っている(図19)。

最後に、ライスペーパーの年間製造スケジュールを検討する。ライスペーパーの需要は通年である。降水量が多い夏期は、ライスペーパーの乾燥に不向きであるが、冬期に比べて気温が

時間	13.5時間 (56.25%)						2時間 (8.33%)	1時間 (4.17%)	7.5時間 (31.25%)	
製造担当者	ライスペーパーに関する活動									
	6.5時間			2.5時間	1.5時間	1.5時間	1.5時間	0.5時間	食事に関する活動	睡眠
	生地の乾燥			生地を測す 選別	生地の準備	移動準備 移動	生地の 裁断・ 商品の 運搬	生地の 成形		
	1.5時間	3時間	1時間							
食事に関する活動	その他	翌日の準備								
時間	13.5時間 (56.25%)						2時間 (8.33%)	1時間 (4.17%)	7.5時間 (31.25%)	
販売担当者	ライスペーパーに関する活動									
	6時間		2.5時間	2時間	1.5時間	1.5時間	0.5時間	食事に関する活動	睡眠	
	ライスペーパーの販売		移動準備 移動	生地を測す 選別	生地の準備	生地の 裁断・ 商品の 運搬	生地の 成形			
	1時間									
食事に関する活動										

図20 ライスペーパー製造世帯(世帯番号9)の一日の活動内容と時間配分(聞き取り調査をもとに作成)

高いため晴れていればすぐに乾燥することもあり、通常の1～2割製造量が増加する傾向にある。気温がそこそ高くと、降水量も少ない4月と11月は製造量が最も多い月で、2～3割増加する。1～2月に相当する旧正月の前後は、のべ1～2週間ほどはライスペーパーの製造を行わないため、製造量は普段の月より2割程度少ない。

以上、本章ではライスペーパー製造世帯の実態について詳しくみてきた。チェウ村では、製造世帯の構成員に販売担当者が4世帯みられるが、齋藤（2019）のハノイ郊外に位置するライスヌードルを製造する専門村のフドー村の調査では、ほとんどの製造世帯に販売担当者が見られた。フドー村もチェウ村と同様に産地仲買への販売もみられたが、両村における販売担当者数の差異には、以下の要因があると考えられる。自ら小売市場や卸売市場に付設する場外市場に向いて販売することで、産地仲買への売値より高値で販売することができるという点においては両村共通するが、これに加えフドー村の場合、ハノイという巨大なマーケットを有する立地が販売担当者の販売活動を可能にしていると考えられる。さらに、フドー村のライスヌードル（*bún*）³⁴は生のため、当日中に売り切る必要がある。一方、乾燥しているライスペーパーは、生のライスヌードルよりも保存性が高いため、遠方の都市や外国に流通させることも可能である。そのため、マーケットの有無に依拠せずとも販売することができるので、チェウ村における販売担当者は比較的少ないと推察できる。

6 おわりに

本稿では、ベトナム経済を支える専門村において零細な自営業を営むインフォーマルセクターの家内工業の実態を明らかにするために、ハナム省グエンリー社のチェウ村においてライスペーパーを製造する世帯の実態を調査、分析した。ベトナム農村部における工業部門の経済活動は、統計では捕捉できない零細な経済主体によって担われている。家族経営が主体の家内工業的色彩が強いといえよう。その実態を解明するには、世帯や世帯構成員の個人といったミクロなレベルの視点からの検討が必要となる。そこで本稿では、ライスペーパーを製造する20の世帯に対して、質問票を用いた聴き取りアンケート調査を行うとともに、村の有識者や人民委員会職員、ライスペーパー製造組合（名称：チェウ村ライスペーパー製造協会）の責任者に対して聴き取り調査を行うことによって検討することとした。

ベトナムではドイモイ以降の急速な経済的成長がもたらした土地なし農民の増加や所得格差の増大といった負の側面を打開すべく、農村開発政策の一環として地場産業を含んだ農村の工

34) 詳しくは注3)を参照されたい。

業化が1990年代初頭から盛んに行われてきた。その中で衰えつつある專業村の復活を目標とし、さらには專業村を観光資源として活用することも奨励されることとなった。2011年、グエンリー社人民委員会により、伝統あるライスペーパー製造の保護と村の発展を目的にチェウ村は專業村の認定を受け、「チェウ村のライスペーパー」が商標登録された。同時に、この商標を管理する組織として「チェウ村ライスペーパー製造協会」が村長や産地仲買人を中心とした村内の製造者たちによって設立することにより、村落内の製造世帯同士のネットワークが確立された。

チェウ村ライスペーパー製造協会の発足時の主要メンバーは、製造世帯でありながら産地仲買人でもある現在の村長と在村する産地仲買人は、製造世帯が約84%にも達するチェウ村にとって、この肩書以外にも様々なかたちでライスペーパーの発展に関与するキーパーソンでもある。村長は、他地域のライスペーパーの製造状況が優れている理由を探り、2003年に在村する産地仲買人と一緒に自動でライスペーパーの生地を成形する機械を開発したイノベーターである。さらに広報活動を行い、製造世帯へ機械の普及に努め、現在では村内には18台の機械が稼働し、村内すべての製造世帯が共同でこれを使用している。さらにこの機械は、基本的にホハンと呼ばれる同姓の傍系親族関係の世帯によって構成されたグループで利用する。この機械を所有する世帯とホハンの関係にない世帯は、利便性を重視して自宅から距離が近い所有世帯と(近所、知人、同級生、顔馴染み、同村出身者などといった)社会的ネットワークを基盤とし、さらにパーソナルな関係を構築することで機械を使用している場合もある。

製造世帯は、基本的にチェウ村出身者で構成されるが、婚姻による周辺外部との関わりがみられる。また製造世帯は、小規模家族経営を基盤とし、世帯主と妻を中心に行われている。世帯によるが、子の労働力も加えてライスペーパーの製造を行っている場合もある。しかし、学生や幼児などの労働参加はみられない。專業的にライスペーパーの製造を行っている世帯もあれば、農業の副業として行っている世帯もみられる。どの世帯もライスペーパーの製造に多くの時間を充てているが、その内実はライスペーパーの乾燥を待つ時間がほとんどであり、その時間を家事などの他の活動に充てている。こういったライスペーパーの製造の特徴が副業としてのライスペーパーと農業の両立を可能にしている。

また、ライスペーパーの製造はライスペーパーの乾燥時間に依存するため、気温が高く乾燥が早い夏期が繁忙期である。しかし、夏に比べて乾燥により一層の時間を要する冬でも製造は行われるため、基本的には通年で製造される。また、ライスペーパーは乾燥しているため保存性が高く、ハノイなどの都市部の大量消費地や外国といった需要地から遠方であっても流通を可能にしている。チェウ村におけるライスペーパーの流通は、主として村内に在住する産地仲買人が担っている。ライスペーパーの製造量は世帯により異なるが、一日当たり16~160kgであ

る。

以上がチュウ村におけるライスペーパーを製造する世帯の実態である。チュウ村におけるライスペーパーの製造方法や技術は、古くから家族で継承されてきたものである。しかしチュウ村のライスペーパーをはじめとした専門村の伝統的な特産品が「工業国化」を急ぐベトナム社会の流れを受け、コンピュータ管理のもと大規模工場で近代的な設備を用いて効率的に大量生産されるようになれば、こういった小規模な家内工業が集積した専門村は衰退、あるいは消滅してしまう可能性がある。ブランド戦略を駆使して伝統技術と製法にこだわった高品質で特徴ある付加価値の高い製品をつくり出さなければ、大量生産品との差別化は難しくなるであろう。いずれにせよ専門村の衰退・消滅は、同時に統計データに反映しないインフォーマルセクターの減少を意味する。彼らの記録を残すことは、今後のベトナムの経済活動にとって意義があるものと考えられよう。

ドイモイ以降に生じた農村部での諸問題は、在村しながら労働力を農業から非農業部門へと再配置することで解消しようとしてきた。専門村はこうした方針のもとで重要な位置を占め、度重なる奨励策が講じられ、復活をとげてきた。しかしながら、これらの取り組みとは逆行するよう、近年のベトナムは近代工業部門の一層の深化は、近代的設備を持たず、限られた資本で小規模家内工業的性格が強い経営主体からなる専門村にとっては厳しい状況下にある。

このような厳しい状況を打開すべく、2011年ライスペーパーのブランド保護および村の発展を目的とした「チュウ村ライスペーパー製造協会」が村民の製造者たちによって設立された。今後は、伝統に接ぎ木しながら、新たな手法で村とライスペーパー製造の発展を導くリーダーの存在や育成、観光資源としてライスペーパーを活かす戦略の検討などが不可欠となろう。

最後に本稿で残した課題を述べて結びとしたい。まず製造世帯の調査では、サンプル数の少なさが指摘できる。産地仲買人に関しては、どのように販売先を選定し、マーケットを開拓・確保してきたのか、あるいはそれらのマーケットは家業的に継承されたものなのかなどについては明らかにはできなかった。さらに、農家を主たる生業にしている世帯の実態については詳しく検討できていない。これらの世帯について、ライスペーパーの製造からどの程度の収入を得ているかという世帯収入や家計についても調査する必要があると考える。今後はこれらに加え、ベトナム経済の成長が専門村にどのような影響を及ぼしていくのか、それに合わせて専門村や製造世帯はどのような将来像を構築して対応・展開していくのかなどについて検討することも課題となろう。

【付記】

本稿は、筆者が関西大学の認定留学制度の適用を受けて、ベトナム国家大学ハノイ理科大学 (Vietnam National University, University of Science) 大学院地理学研究科に在籍した2013年9月～2014年9月までの成果の一部である。当時の指導教授である Truong Quang Hai 教授と Tran Anh Tuan 博士に深く感謝いたします。また、Nguyen Thi Ha Thanh 先生をはじめ調査の補助をしていただいた学生にも心から感謝いたします。最後に、原稿を注意深くお読みになり、適切なお助言をくださった査読者および、関西大学地理学教室の先生方に深く御礼申し上げます。

本稿の内容は、2014年人文地理学会大会 (広島大学東広島キャンパス) で一般口頭発表を行った (発表番号202)。

【参考文献・参照Webページ】

- 荒井良雄, 岡本耕平, 神谷浩夫, 川口太郎 (1996): 『都市の空間と時間 — 生活行動の時間地理学 —』古今書院
- 伊東正一 (2007): 「ベトナムのコメ経済及び輸出メカニズム」『平成18年度海外農業情報分析事業アジア太平洋地域及び中国地域食料農業情報調査分析検討事業実施報告書』29-57頁, 国際農林業協力・交流協会
- 井出富美 (2006): 「第4章 ベトナム農村工業化政策の発展 — アンザン省の事例を中心に —」(藤田麻衣 編『移行期ベトナムの産業変容 — 地場企業主導による発展の諸相 —』) 137-189頁, アジア経済研究所
- 植田 憲, 朴 燦一, 宮崎 清 (2001): 「地域資源活用に基づく「ベトナム伝統工芸村」建設計画 — 内発的発展論を基底とした地域連携に関する基礎的研究 (1) —」『デザイン学研究』第48巻第3号, 77-86頁
- 岡江恭史 (2015): 「ベトナムの「自治村落」と農民組織」『村落社会研究ジャーナル』第21巻第2号, 10-22頁
- 外務省「諸外国・地域の学校情報 (平成29年12月更新情報)」(閲覧日2018年11月1日)
https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC11600.html
- 川本邦衛 編 (2013): 『詳解ベトナム語辞典』大修館書店
- グエンリー社人民委員会 編 (2011): 『グエンリー社要覧』グエンリー社人民委員会 (原文ベトナム語)
- 齋藤鮎子 (2019): 「ハノイの農村工業専業村における家内工業の実態 — フードー村のライスヌードルを事例に —」『史泉 (関西大学史学地理学会)』第129号, 1-26頁
- 在ベトナム日本国大使館「ベトナム工業化戦略」(閲覧日2019年10月1日)
<https://www.vn.emb-japan.go.jp/jp/economic/Industrialization-Strategy.html>
- 坂田正三 (2010): 「ベトナム農村の工業化 — 黄河デルタ地域の工芸村の発展を中心に —」『アジア研ワールド・トレンド』第177巻, 4-7頁
- 坂田正三 編 (2013): 『高度経済成長下のベトナム農業・農村の発展』アジア経済研究所
- 坂田正三 (2017): 『ベトナムの「専業村」— 経済発展と農村工業化のダイナミズム —』アジア経済研究所
- 桜井 由躬雄 (1987): 『ベトナム村落の形成: 村落共有田 = コンディエン制の史的展開』創文社
- 桜井 由躬雄, 桃木至朗 編 (1999): 『東南アジアを知るシリーズ ベトナムの事典』角川書店
- 佐藤葉子, 山路永司 (2002): 「ベトナムの手工業が農村における雇用創出と住民の生活水準向上に果たす役割 — ベトナム南部の漆工芸村を例に —」『農村計画学会誌』21巻, 7-12頁
- 白石昌也 (2015): 「ベトナム農業・農村の将来を展望して (巻頭エッセイ)」『アジア研ワールド・トレンド』第233巻, 1頁
- 高橋 壘 (2015): 「農業経営規模の拡大と雇用 — 農村人口の固定化をどう捉えるか (特集 ベトナム農業・

- 農村の今日」アジ研ワールド・トレンド, 第223巻, 30-33頁
- 長 憲次 (2004):『市場経済下ベトナムの農業と農村』筑波書房
- 筒井 由起乃 (2004):「ドイモイ期のベトナム紅河デルタ農村における経済活動と社会的ネットワーク」人文地理, 第56巻第2号, 113-133頁
- 野間晴雄 (1988):「農民社会における時間配分研究 (time allocation) のコンテキスト——第三世界を中心に——」人文地理, 第40巻第2号, 144-163頁
- 野間晴雄 (2003):「P. グルーのみたベトナム農村空間と「米の力」——『トンキンデルタの農民』再検——」関西大学文学論集, 第52巻第3号, 145-172頁
- ピエール・グルー 著, 村野勉 訳 (2014):『トンキン・デルタの農民——人文地理学的研究——』丸善出版
- 藤田麻衣 編 (2006):『移行期ベトナムの産業変容——地場企業主導による発展の諸相——』アジア経済研究所
- 湯澤規子 (2009):『在来産業と家族の地域史——ライフヒストリーからみた小規模家族経と結城紬生産——』古今書院
- Bánh đa nem làng Chèu 「チェウ村ライスペーパー製造協会 HP」(閲覧日2019年9月10日)
<http://www.banhdanemlangcheu.com.vn/Gioi-thieu/>
- GENERAL STATISTICS OFFICE of VIET NAM (GSO) 「ベトナム統計局」(閲覧日2019年9月10日)
https://www.gso.gov.vn/Default_en.aspx?tabid=491
- Lê Trung Hoa 2005. Họ và tên người Việt Nam. Hà Nội, Việt Nam: NXB Khoa học Xã hội (Social Sciences Publishing House).
- Nguyen Thi Ha Thanh 2011. *Conversion of Agricultural Land and its Impact on Peasants in Hanoi Suburbs During Rapid Urbanization: A Case Study on Me Tri Commune*. 人文地理, 第63巻第2号, 113-129頁
- Vũ Quốc Tuấn (ベトナム専業村協会) 2009. *Làng Nghề trong Công Cuộc Phát Triển Đất Nước* (国家開発事業の中の専業村), Hà Nội, Nhà Xuất Bản Tri Thức (知識出版社).
- Vũ Quốc Tuấn (ベトナム専業村協会) 2011. *Làng Nghề trong Công Cuộc Phát Triển Đất Nước* (国家開発事業の中の専業村), Hà Nội, Nhà Xuất Bản Tri Thức (知識出版社).